

エコアクション21

令和2年度

(令和2年1月～令和2年12月)

環境活動レポート

1. 事業活動概要
2. 環境方針
3. 環境目標
4. 主要な環境活動計画の内容
5. 環境目標の実績・環境活動の取組結果の評価及び次年度の取り組み内容
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
7. 代表者による全体評価と見直し

発行日：令和3年1月29日

株式会社 真 田

<http://www.sanadabottle.com/>



1. 事業活動概要

【事業所名称及び代表者名】

株式会社 真 田
代表取締役 眞田 明男

【認証・登録範囲】

対象事業所：株式会社真田 本社・宇都宮支店・船橋営業所
対象事業活動：硝子壺のリユース事業及び再資源化事業、缶・ペットボトルの
再資源化事業
認証登録番号：0004039
認証登録日：2008年8月22日

【法人設立年月日】

昭和46年1月22日

【資本金】

10,000,000円

【環境管理責任者及び担当連絡先】

本社（東京都葛飾区東新小岩4-20-8）

責任者：松永 秀雄

担当者：齊藤 祐子

連絡先：電 話 03-3696-1701

：F A X 03-3694-4715

Email：sanadatokyo@yahoo.co.jp

宇都宮支店（栃木県宇都宮市若松原2-7-1）

責任者：松永 秀雄

担当者：関山 美穂

連絡先：電 話 028-653-0916

：F A X 028-653-4971

Email：sekiyama@sanadabottle.com

船橋営業所（千葉県船橋市高根町2054-3）

責任者：鈴木 誠

担当者：塩島 克美

連絡先：電 話 047-430-1640
： F A X 047-430-1640

【対象範囲】

全組織・全活動対象

【事業内容】

- ・新塚の販売・旧塚の利用再生事業
- ・廃棄物再生事業
- ・一般貨物自動車運送事業

廃棄物再生事業者登録（内容：空き塚の再生事業）		
登録証明書	登録番号	登録年月日
東京都	第 92 号	平成 6 年 11 月 7 日

産業廃棄物収集運搬業許可 （内容：廃プラ類、紙くず、木くず、金属くず、ガラス、コンクリート、陶磁器くず）		
都道府県・市名	許可番号	有効年月日
東京都	第 13-00-189244 号	令和 3 年 7 月 14 日
埼玉県	第 01100189244 号	令和 4 年 4 月 27 日
千葉県	第 01200189244 号	令和 3 年 7 月 14 日
神奈川県	第 01400189244 号	令和 4 年 5 月 24 日
栃木県	第 00900189244 号	令和 7 年 8 月 16 日

宇都宮市資源回収指定登録（内容：紙類、びん、金属）		
登録証明書	登録番号	登録年月日
宇都宮市	A066	平成 23 年 11 月 7 日

一般貨物自動車運送業（内容：一般廃棄物の運送）		
許可書	事業者番号	登録年月日
関東運輸局	460006346	平成 12 年 3 月 31 日

【事業の規模】

活動規模	単 位	令和 2 年度
びん処理量	t	1,341
売上高	百万円	345
生きびん扱い量	本(1.80壺換算)	3,549,744
総床面積	m ²	4,933
従業員数 本社	人	40
従業員数 宇都宮支店	人	5
従業員数 船橋営業所	人	2

【車輛保有台数 本社】

種 類	台 数
軽トラック	5
2 t トラック	18
内(天然ガス車)	(2)
内(ハイブリッド車)	(4)
塵芥車	4
3 t トラック	3
内(天然ガス車)	(1)
4 t トラック	4
フォークリフト	3

【車輛保有台数 宇都宮支店】

種 類	台 数
2 t トラック	1
4 t トラック	1
フォークリフト	2

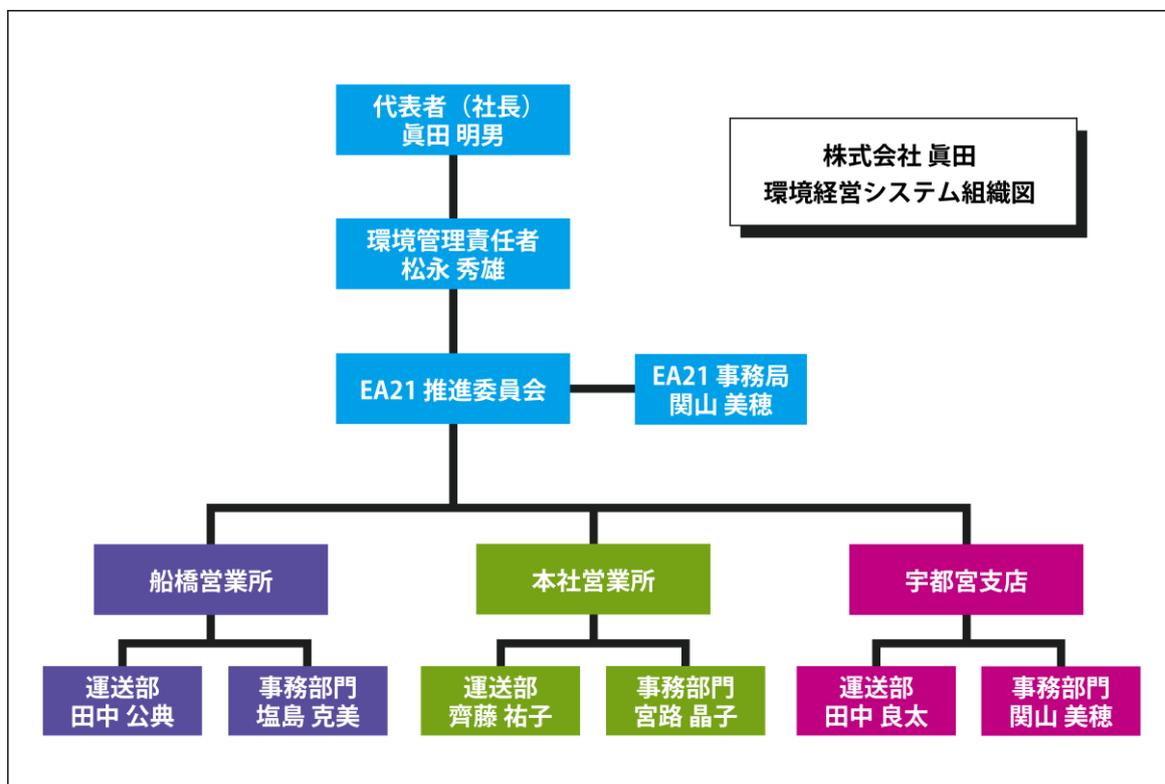
【車輛保有台数 船橋営業所】

種 類	台 数
フォークリフト	4

【組織図】

2008/10/3 作成

2019/10/1 改定



【役割・責任・権限】

●代表者（社長）

- ・ 環境経営に関する統括責任
- ・ 環境経営システムの実施に必要な、人、設備、費用、時間、技能、技術者を用意
- ・ 環境管理責任者を任命
- ・ 環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知
- ・ 環境目標・活動計画書を承認
- ・ 代表者による全体の評価と見直しを実施
- ・ 環境活動レポートの承認
- ・ 経営における課題とチャンスの明確化

●環境管理責任者

- ・ 環境経営システムの構築、実施、管理
- ・ 環境関連法等の取りまとめ表を承認
- ・ 環境目標・活動計画書を実施

- ・ 環境活動の取組結果を代表者へ報告
- ・ 環境レポートの承認

●環境事務局

- ・ 環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局
- ・ 環境への付加の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施
- ・ 「環境関連法規等の取りまとめ表」の作成
- ・ 「環境関連法規等の取りまとめ表」に基づく順守評価の実施
- ・ 環境目標・環境活動計画書の原案の作成
- ・ 環境活動の実績集計
- ・ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
- ・ 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）

●部門長

- ・ 自部門における環境経営システムの実施
- ・ 自部門における環境方針の周知
- ・ 自部門の従業員に対する教育訓練の実施
- ・ 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
- ・ 特定された項目の手順書作成及び運用管理
- ・ 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録
- ・ 自部門の問題点の発見、是正、予防処置

●全従業員

- ・ 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚
- ・ 資源リサイクル業という認識を持ち環境活動へのより積極的な参加

『環境方針』

※基本理念

株式会社真田は、リターナブル壘容器の販売、廃棄物再生事業、トラック運送事業と環境保全との調和を目指し、事業活動が地域社会環境及び地球環境に及ぼす影響に配慮するとともに、あらゆる環境負荷の低減及び資源の有効活用に努めます。

※基本行動方針

1. 全社を挙げて環境保全活動に取り組みます。
2. 環境保全対策を推進する体制を整備します。
3. リターナブル壘容器の販売を促進し温暖化の原因とされる温室効果ガス CO₂ の削減に努めます。
4. エコドライブ推進計画を策定し、重点目標として達成するよう取り組みます。
5. 各種法律を遵守するほか、環境保全にかかわるその他ルールを守ります。
6. 環境に関する知識の普及・啓発を図ります。
7. 環境経営の継続的改善に努めます。
8. 環境経営方針は全従業員に周知します。

制定 平成 20 年 1 月 1 日

改定 令和元年 10 月 1 日

東京都葛飾区東新小岩 4 丁 20 番 8 号

株式会社 真 田

代表取締役 **真田 明男**

3. 環境目標

1) 環境目標

以下の目標を掲げ環境活動に取り組んだ。

- ① 温室効果ガス(CO₂)の排出量の削減 (1%減)
- ② リターナブル壺容器の販売の促進 (1%増)
- ③ 再資源化の向上 (1%増)
- ④ 廃棄物の削減 (1%減)
- ⑤ 水資源の削減

生活用水による使用のみの為 (洗車使用は少量の為、計量はしていない)
削減目標に掲げないが節水に従業員一同取り組んでゆく。

- ⑥ グリーン購入 事務用品のグリーン購入を推進する。
- ⑦ 化学物質 使用無しの為、目標設定しない。

2) 基準値及び環境目標

2020年の目標は2019年実績を基に基本的に1%増または減で設定した。

2021~2023年の目標は引き続き毎年1%増または減で設定した。

本社

環境目標		単位	活動計画 基準値	2020年 目標	2021年 目標	2022年 目標	2023年 目標
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	67,625	66,273 (-2%)	65,596 (-3%)	64,920 (-4%)	64,244 (-5%)
	燃料削減(天然ガス)	m ³	16,552	16,221 (-2%)	16,055 (-3%)	15,890 (-4%)	15,724 (-5%)
	燃料削減(ガソリン)	L	3,990	3,910 (-2%)	3,870 (-3%)	3,830 (-4%)	3,791 (-5%)
	電気使用量の削減	kWh	11,630	11,514 (-1%)	11,397 (-2%)	11,281 (-3%)	11,165 (-4%)
	二酸化炭素排出量	t-CO ₂	236.7	231.9 (-2%)	229.6 (-3%)	227.2 (-4%)	224.9 (-5%)
再資源化物	再資源化物の向上 (ガラス壺)	t	820.1	828.3 (+1%)	836.5 (+2%)	844.7 (+3%)	852.9 (+4%)
	リターナブル容器販売の促進(1.80壺)	本	2,934,130	2,992,813 (+2%)	3,022,154 (+3%)	3,051,495 (+4%)	3,080,837 (+5%)
廃棄物	廃棄物を削減する	kg	0	0 (-2%)	0 (-3%)	0 (-4%)	0 (-5%)

宇都宮支店

環境目標		単位	活動計画 基準値	2020年 目標	2021年 目標	2022年 目標	2023年 目標
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	9,630	9,437 (-2%)	9,341 (-3%)	9,244 (-4%)	9,149 (-5%)
	燃料削減(ガソリン)	L	0	0 (-2%)	0 (-3%)	0 (-4%)	0 (-5%)
	燃料削減(LPG)	Kg	1,421	1,393 (-2%)	1,378 (-3%)	1,364 (-4%)	1,350 (-5%)
	電気使用量の削減	kWh	5,504	5,449 (-1%)	5,394 (-2%)	5,339 (-3%)	5,284 (-4%)
	二酸化炭素排出量	t-CO ₂	32.1	31.4 (-2%)	31.1 (-3%)	30.8 (-4%)	30.5 (-5%)
再資源化物	再資源化物の向上 (ガラス壘)	t	94.8	95.7 (+1%)	96.7 (+2%)	97.6 (+3%)	98.6 (+4%)
	リターナブル容器販売の促進(1.80壘)	本	629,614	642,206 (+2%)	648,502 (+3%)	654,799 (+4%)	661,095 (+5%)

船橋営業所

環境目標		単位	活動計画 基準値	2020年 目標	2021年 目標	2022年 目標	2023年 目標
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	1,179	1,155 (-2%)	1,144 (-3%)	1,132 (-4%)	1,120 (-5%)
	燃料削減(ガソリン)	L	0	0 (-2%)	0 (-3%)	0 (-4%)	0 (-5%)
	燃料削減(LPG)	Kg	2,236	2,191 (-2%)	2,169 (-3%)	2,147 (-4%)	2,124 (-5%)
	電気使用量の削減	kWh	5,258	5,205 (-1%)	5,153 (-2%)	5,100 (-3%)	5,048 (-4%)
	二酸化炭素排出量	t-CO ₂	12.4	12.2 (-2%)	12.1 (-3%)	11.9 (-4%)	11.8 (-5%)
再資源化物	再資源化物の向上 (ガラス壘)	t	0	0 (+1%)	0 (+2%)	0 (+3%)	0 (+4%)

全社（本社・宇都宮支店・船橋営業所）

環境目標		単位	活動計画 基準値	2020年 目標	2021年 目標	2022年 目標	2023年 目標
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	78,434	76,865 (-2%)	76,081 (-3%)	75,296 (-4%)	74,512 (-5%)
	燃料削減(天然ガス)	m ³	16,552	16,221 (-2%)	16,055 (-3%)	15,890 (-4%)	15,724 (-5%)
	燃料削減(ガソリン)	L	3,990	3,910 (-2%)	3,870 (-3%)	3,830 (-4%)	3,791 (-5%)
	燃料削減(LPG)	L	3,657	3,584 (-2%)	3,547 (-3%)	3,511 (-4%)	3,474 (-5%)
	電気使用量の削減	kWh	22,392	22,168 (-1%)	21,944 (-2%)	21,720 (-3%)	21,496 (-4%)
	二酸化炭素排出量	t-CO ₂	281.2	275.6 (-2%)	272.8 (-3%)	270.0 (-4%)	267.1 (-5%)
再資源化物	再資源化物の向上 (ガラス壘)	t	914.9	924.0 (+1%)	933.2 (+2%)	942.3 (+3%)	951.5 (+4%)
	リターナブル容器販売の促進(1.80壘)	本	3,563,744	3,635,019 (+2%)	3,670,656 (+3%)	3,706,294 (+4%)	3,741,931 (+5%)
廃棄物	廃棄物を削減する	kg	0	0 (-2%)	0 (-3%)	0 (-4%)	0 (-5%)

電力会社名：株式会社ハルエネ

調整後の排出係数：0.463(kg-CO₂/kWh) 平成30年度実績

※廃棄物は産業廃棄物のみで、内訳はもつぱら物のカレットや有価の金属で100%再資源化しています

4. 主要な環境活動計画の内容

1) 温室効果ガス(CO₂)の排出量の削減

1. エコドライブの推進

- ① アイドリングストップの実施
- ② 経済速度での走行
- ③ 車両の点検整備の実施

2. 電気使用量の削減

- ① 事務所・倉庫での不要な電気の消灯
- ② エアコンの設定温度の管理（夏季 28 度/冬季 23 度）

2) 再資源化の向上

1. 再資源化の向上

- ① リサイクルによって排出される残渣を最小化に努めます

2. リターナブル壺容器の販売の促進

- ① リユース可能な容器の販売の促進
- ② リターナブル壺を安心して利用して頂ける品質の管理

3) 廃棄物の削減

- ① 梱包の簡素化
- ② 事務所より排出される廃棄物の抑制

4) グリーン購入の推進

- ① 事務用品のグリーン購入推進

5) 水資源の削減

- ① 節水に取り組んでゆく

5. 環境目標の実績 環境活動の取組結果の評価及び次年度の取り組み内容

本社

環境目標		単位	2020年 目標	2020年 実績	達成 区分
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	66,273	63,810	○
	燃料削減 (天然ガス(CNG))	m ³	16,221	7,044	○
	燃料削減 (ガソリン)	L	3,910	2,881	○
	電気使用量の削減	kWh	11,514	11,340	○
	二酸化炭素排出量	t-CO ₂	231.9	192.3	○
再資源化物	再資源化物扱い量の 増大(ガラス壘)	t	828.3	785.1	×
	リターナブル容器販 売の促進(1.80壘)	本	2,992,813	2,978,558	△
廃棄物の削減	廃棄物を削減する	kg	0	220	×

宇都宮支店

環境目標		単位	2020年 目標	2020年 実績	達成 区分
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	9,437	8,573	○
	燃料削減 (ガソリン)	L	0	0	△
	燃料削減(LPG)	Kg	1,393	791	○
	電気使用量の削減	kWh	5,449	4,707	○
	二酸化炭素排出量	t-CO ₂	31.4	26.7	○
再資源化物	再資源化物扱ひ量の 増大(ガラス壘)	t	95.7	77.8	×
	リターナブル容器販 売の促進(1.80壘)	本	642,206	571,186	×

船橋営業所

環境目標		単位	2020年 目標	2020年 実績	達成 区分
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	1,155	1,000	○
	燃料削減 (ガソリン)	L	0	0	△
	燃料削減(LPG)	Kg	2,191	1,555	○
	電気使用量の削減	kWh	5,205	3,060	○
	二酸化炭素排出量	t-CO ₂	12.2	9.2	○
再資源化物	再資源化物扱ひ量の 増大(ガラス壘)	t	0	0	△

全社（本社・宇都宮支店・船橋営業所）

環境目標		単位	2020年 目標	2020年 実績	達成 区分
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	76,865	73,382	○
	燃料削減 (天然ガス(CNG))	m ³	16,221	7,044	○
	燃料削減 (ガソリン)	L	3,910	2,881	○
	燃料削減(LPG)	L	3,584	2,346	○
	電気使用量の削減	kWh	22,168	19,107	○
	二酸化炭素排出量	t-CO ₂	275.6	228.2	○
再資源化物	再資源化物扱ひ量の 増大(ガラス壘)	t	924.0	862.9	×
	リターナブル容器販 売の促進(1.80壘)	本	3,635,019	3,549,744	×
廃棄物の削減	廃棄物を削減する	kg	0	220	×

電力会社名：株式会社ハルエネ

調整後の排出係数：0.463(kg-CO₂/kWh) 平成30年度実績

※廃棄物は産業廃棄物のみで、内訳はもっぱら物のカレットや有価の金属で100%再資源化しています

5-1) - 1

輸送燃料削減

当社保有トラックの各クラス毎に、おおむね前年度並みの燃費であり、車両の入れ替え、運転手の変更、運行状況等の差異を考えると、会社として取り組んでいる燃費対策が、安定した燃費として成果を得る事が出来ていると考えられる。

平均燃費

2トン車	Km	3トン車	Km	4トン車	Km
天然ガス(Nm ³)	4.6	天然ガス(Nm ³)	3.5	天然ガス(m ³)	—
軽油(ℓ)	5.7	軽油(ℓ)	5.5	軽油(ℓ)	7.4

次年度は輸送車両燃費 0.1 (Nm³) (ℓ) を目標にする。

5-1) - 2

電気使用量の削減

本社、宇都宮支店、船橋営業所共に目標を達成出来た。
理由としては、船橋営業所の営業日数の減少と事務所内での交代制のテレワーク導入により、従来より消費する電力が減った。
次年度は現在のマイナス1%を目標とする。

5-2) - 3

CO2排出量の削減

CO2の削減は輸送量の減少やテレワークにより達成できた。
次年度はマイナス1%を目標とする。

リターナブル壺容器の販売の促進

新型コロナウイルスの影響により飲食店の販売の減少が歯止めがかからずリターナブルびんの集荷に苦戦した。今後も現在カレット化されている1.8ℓ壺や小型瓶の回収に力を入れていく。次年度はプラス1%を目標とする。

5-2) - 2

再資源化の向上

顧客に対し曇の色や種類、異物混入等が無い様に分別の徹底をお願いし品質の向上に努め、リサイクル率を高める。次年度は1%増の達成を目指す。

5-3)

廃棄物の削減

資源回収時に混合して排出される一般廃棄物より出る残差が非常に多く、分別の徹底を行った。次年度もリサイクル可能な物を徹底的に抜き廃棄物削減に努める。

5-4)

水資源の削減

生活用水による使用のみの為、削減目標に掲げていないが次年度も手洗いやトイレ、清掃時の節水に従業員一同取り組んでゆく。

5-5)

グリーン購入の推進

目標値は設定していないが、次年度も事務用品のグリーン購入に取り組んでゆく。

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

環境関連法規は各項目を遵守し評価判定は全てにおいて達成している。関連環境法規の違反訴訟はありません。また、近隣からの苦情等に早急に対応し訴訟もありません。

7. 代表者による全体評価と見直し

当社の環境負荷の主因である車両の運行による CO2 の排出数値は資源回収車両については、回収ルートの見直しを半年ごとに行い効率化を図っている。今後もエコ車両の導入を行う。

電気の削減では新型コロナウイルス影響で事務所内の窓を開けてのエアコンの運転を行って感染予防を行いテレワークへシフトも行った。

新型コロナウイルスの影響により飲食店用の容器の減少になり一般家庭にて飲まれる容器はペットボトルや缶容器が主流でリターナブルびんの集荷に大きな打撃を受けた。酒造メーカーのリターナブルびん発注も今年度は 3 割ほど減少した。昨年度より開始した納品地域近隣のメーカーに協力を戴き 4 トン車 1 台ロットに満たない少数ロットの注文にも 2～3 件での荷降ろしが出来る様に今後も協力を求めてゆく。

リターナブル容器の販売の促進については中容量びんがメインになり昨年同様に回収時や洗浄時に発生する容器の傷で販売に苦戦した。目標に達成出来なかった再資源化物は新型コロナウイルス終息すれば達成できる。

SDGs (持続可能な開発目標) 17 の目標の内下記の項目を目標に 2021 年度 EA21 に活動を行う。

3. すべての人に健康と福祉を
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう

